

子どもの進路にどうかかわるべきか 1年生の保護者向け講演で情報提供

—新潟・県立 長岡大手高校—

取材・文／永井ミカ



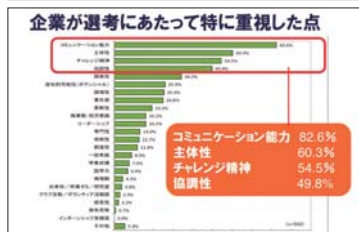
左から、
副校長
鷲尾雄慈先生
進路指導部主事
岡田直久先生
進路指導部1学年担当
竹村剛史先生

School Data

創立1903年／普通科・家政科
生徒数862人(男子339人・女子523人)
進路状況(2012年度)／大学進学67.9%・短大進学4.4%・専各進学16.0%・就職0.1%・その他8.8%
新潟県長岡市四郎丸町沖田357
TEL 0258-32-0096
URL <http://www.nagaokahte-h.nein.ed.jp>

■ 第1回1学年保護者向け講演会の資料(一部抜粋)

- 第1部 リクルート「お子様の進路選択について大事にして頂きたいこと」より



高校時代では、勉強や部活を通じて

- 自分だったらどうするか？
主体的に考える
- 多様な意見に耳を傾ける。
周囲に積極的に働きかける
- 最後まで諦めずにやりぬく
- 「なぜ？」という課題意識を持ち、探究する

といった経験の積み重ねで、社会で必要な力を身につける。

2013年実施の講演例

- 第2部 鷲尾副校長先生「保護者として子どもの進路実現にどう関わるか①」より

子どもががんばるために保護者は何をすべきか

- 食事・睡眠・健康管理・服装のチェックは保護者の責任
- 学習時間は保護者の姿勢で決まる
- 「新潟」の感覚と「他県」の感覚が違うことを理解する
- 他県の生徒ができて、新潟県の生徒ができないわけがない
- 教員と保護者の信頼関係と役割分担による相乗効果で生徒を支援する

今年度よりキャリア教育推進委員会が発足した長岡大手高校。「どんな学部があるか知らないままとりあえず新潟大学を目指したい」という生徒が多くいます。もっと広い視野をもって、自分は何を学びたくて大学に行くのか、大学を卒業してどう社会に出ていきたいのかということを考えさせたい」と岡田直久進路指導部主事は言う。そこで、職業観育成、学部・学科研究などにあらためてきちんと取り組んでいこうということになった。

保護者と生徒が話し合うきっかけに

そんななか、1学年の8月、第1回保護者向け進路講演会が開かれた。生徒だけでなく保護者の視野を広げることも必要と考えたからだ。保護者にも現状を知ってもらい、親子で進路についてしっかり話し合ってもらおうのがねらい。講演会は2部制で、1部はリクルートによる昨今の大学進学事情や大卒後の就職状況についての、大きな話、2部は鷲尾雄慈副校長に

よる、具体的な話である。進路指導部の竹村剛史先生は言う。「保護者が一番知りたがっているのは大学の出口、つまり就職の話です。本当のところはどうなのか、実際の生々しい話や具体的な数字が聞きたいという根強いニーズがあり、民間の経験がない教員では対応が難しいと感じていました」。第1部の内容は、大学進学率、中退率、文系や理系の就職状況、求人者数、離職率、生涯年収、求められる人材、選考ポイントなど。そして、保護者が子どもの進路選択にかかわることの重要性や、高校での生活が社会で働く力につながるからこそ、将来を見据えて高校1・2学年のうちに取り組むべきことは何かといった話もされた。

第2部は鷲尾先生が大学に関する情報や、中学校と高校の学習内容の違いについて具体的に語る。また、家庭学習の時間を確保し規則正しい生活を送るために、保護者がすべきことなども説明された。「学校外の方に語ってもらう一般的な情報、生徒の実態に即した具体的な情報、両方あつてこそ効果がアップします」と岡田先生。キャリア教育を模索していきたいと考えた。

3年間を見通した進学校のキャリア教育

動き出した同校のキャリア教育。今年度は1・2年生に向けて20人の職業人が分科会形式で語る「キャリア探求ゼミ」も開かれた。「生徒たちは熱心に聞いていて手応えを感じました。今後、1学年で職業研究から学部・学科研究へ、2学年でオープンキャンパスや企業訪問を経て、3学年になつたら落ち着いて進路実現に向かうという流れを作りたい」と竹村先生。「3学年になつてから生徒と保護者の意見がぶつかるなどということがないよう、1学年のうちからたくさんのご意見を聞き、親子で話し合ってもらいたい」と岡田先生。これから

12月には第2回めの保護者向け進路講演会が開かれ、第1部がファイナンシャルプランナーによる進学にかかるお金の話、第2部が鷲尾先生による講演第2弾で、第1回め同様、好評を博した。

保護者として子どもの進路実現にどう関わるか①」より

保護者として子どもの進路実現にどう関わるか①」より

保護者として子どもの進路実現にどう関わるか①」より

保護者として子どもの進路実現にどう関わるか①」より

保護者として子どもの進路実現にどう関わるか①」より